

6年たって考える、食品中の放射性物質のお話

東日本大震災から6年が経ちました。あの時抱いた自然への畏敬の念や、復興に向けての支援の気持ちは忘れることができないものです。同時に起きた福島原発の事故に伴う放射性物質の問題も、食への不安はもとより、その近隣地域の食材を根拠なく怖がってしまう風評被害についても考えさせられました。6年たっての現状、改めてお知らせします。

●2016年の一年間の検査で、食品中の放射性物質が検出された事例は一つもありません

事故当初は、葉物の一部やきのこ、お茶などから検出された事例が報道されることがありました。生協の検査でも同じような商品群から検出されたことがありましたが、2016年の一年間の検査結果を見ると、検出事例は一つもありません（詳しくはすべての検査結果が公表されている、各生協のHPをご覧ください）。これは、事故を受けて行われた様々な対処法が功を奏したことはもちろん、微量に残っていた放射性物質も月日がたつことにより消失していることが分かる結果です。

●全国の生協で実施している食事摂取量調査の結果もすべて不検出

事故の年から始めた、全国の組合員の皆さんの食事そのものの放射性物質を測る取り組みも年間260件レベルで継続中です。こちら事故当初は健康に影響のないレベルで微量検出されることがありましたが、現在はどのご家庭の食事からも検出されていません。

●心配される地域のものの検査は続けています

そうはいつても、事故近隣の地域の農産物など、まだ心配されている声をお聞きすることもあります。東海コープでは、気になるような農産物をお届けする時には放射性物質検査を実施し、問題ないことを確認しています。ぜひ、安心してご利用いただきたいと思います。

6年前とは変わってきている食品中の放射性物質の現状、ぜひもう一度見直してみてください。

2017年
3月3週
(11号)

東海コープからの

おいしくって、安全なおはなし

